

# 論文内容の要旨

論文題目: Study of the Kähler-Ricci Flow and its Application in Algebraic Geometry  
(ケーラー・リッチ流の研究とその代数幾何学における応用)

氏 名: 野村 亮介

本論文は、以下の3つについて述べたものである。

- 定値正則断面曲率をもつコンパクト Kähler 多様体への Kähler-Ricci flow の応用 [Nom16a]
- conical Kähler 計量に対する Schwarz の補題 [Nom16b]
- 最大存在時間が有限な conical Kähler-Ricci flow のスカラー曲率の挙動 [Nom16c]

以下、各項目について得られた結果を述べる。

## 1 定値正則断面曲率をもつコンパクト Kähler 多様体への Kähler-Ricci flow の応用

コンパクト Kähler 多様体  $(X, \omega)$  に対し、その曲率として、Ricci 形式  $\text{Ric}(\omega)$  と正則断面曲率  $H(\omega)$  が考えられる。この2つの曲率の間の直接的な関係は知られておらず、一方の曲率の正値性が他方の正値性を導く、という主張ですら未解決である。そこで、Ricci 形式が、コホモロジー類  $-2\pi c_1(K_X)$  を代表することに注目すると、 $X$  の標準束  $K_X$  の正値性と正則断面曲率  $H(\omega)$  の負値性との関係性はどのようなものか、という問題を考えることができる。この問題自体は、Yau によるものである ([HLW16, Conjecture 1.2])。この問題について、近年 Wu-Yau および、Tosatti-Yang らが次の結果を得た。

**Theorem 1** (Wu-Yau [WY16a], Tosatti-Yang [ToY15]). コンパクト Kähler 多様体  $X$  が、 $H(\hat{\omega}) < 0$  なる Kähler 計量  $\hat{\omega}$  をもつならば、その標準束  $K_X$  は豊富 (ample) である。□

**Theorem 2** (Tosatti-Yang [ToY15]). コンパクト Kähler 多様体  $X$  が、 $H(\hat{\omega}) \leq 0$  なる Kähler 計量  $\hat{\omega}$  をもつならば、その標準束  $K_X$  は数値的半正 (nef) である。□

これらの定理の証明は、Wu-Yau による以下のアイデアに基づいている。つまり、 $2\pi c_1(K_X) + \varepsilon[\hat{\omega}]$  が Kähler 類となる正定数  $\varepsilon > 0$  に対し、 $\text{Ric}(\omega_\varepsilon) = -\omega_\varepsilon + \varepsilon\hat{\omega}$  を満たす Kähler 計量  $\omega_\varepsilon \in 2\pi c_1(K_X) + \varepsilon[\hat{\omega}]$  をとり、 $\varepsilon$  を 0 に近づけていくときの  $\omega_\varepsilon$  振る舞いを調べるのである。

本論文では、Theorem 1, 2 を Kähler-Ricci flow を用いた別証明を与えた [Nom16a]。証明においては、次の2点がキーとなる。つまり、Kähler-Ricci flow の最大存在時間  $T$  のコホモロジー類を用いた特徴づけ [TZ06] を用いて、 $K_X$  の正値性と Kähler-Ricci flow とを関係づける点、そして、放物型 Schwarz の補題 [ST07] と正則断面曲率を結びつけて  $C^2$ -評価を得る点である。

## 2 Conical Kähler 計量に対する Schwarz の補題

一変数複素解析における基本的な結果の 1 つに, Schwarz の補題がある. これは, 単位円盤の間の任意の正則写像は, Poincaré 距離を減少させる, というものであった. この定理は様々な形に一般化されているが, そのなかでも革新的であったのは, Yau [Yau78] による高次元化であろう. これは, Ricci 曲率が下から一様に有界な完備 Kähler 多様体から, 正則双断面曲率が上から負の定数で抑えられる Hermite 多様体への任意の正則写像は, その距離を (定数倍を除いて) 減少させる, というものであった. また, Yau は, 同様の曲率の仮定のもとに, 体積形式に関する Schwartz の補題も得ている.

その後, Jeffres [Jef00] は, conical Kähler 計量に対し, 体積形式に関する Schwartz の補題を証明した. ここで, conical Kähler 計量は完備でないため, 最大値原理を用いるという Yau の手法を直接用いることができない, という点に注意する. この点を, Jeffres は, “バリア関数” を導入することにより克服したのであった. しかし, その議論を遂行するための conical Kähler 計量に関する regularity の仮定が不足していた. また, 定理の主張には, cone angle に関する制限があるという不満もあった.

本論文では, Jeffres の証明におけるギャップを補い, また, 任意の cone angle に対して適用できるように改良した. さらに, Jeffres の論文では扱っていなかった距離に関する Schwarz の補題も得た. 本論文で得た距離に関する Schwarz の補題は, 以下のものである.

**Theorem 3** ([Nom16b]).  $(X, D, \omega_X), (Y, E, \omega_Y)$  をそれぞれコンパクト Kähler 多様体, 多様体内のなめらかな因子, その因子にそった conical Kähler 計量の三つ組とする. また,  $\omega_X, \omega_Y$  の cone angle をそれぞれ  $2\pi\alpha, 2\pi\beta$  とする. さらに, 曲率の仮定として, 次のような定数  $A, B > 0$  が存在すると仮定する.

$$\text{Ric}(\omega_X) \geq -A\omega_X, \text{Bisec}(\omega_Y) \leq -B < 0.$$

このとき,  $f^*E = kD$  ( $k \in \mathbb{Z}$ ) を満たす任意の正則写像  $f: X \rightarrow Y$  に対し, 次が成り立つ.

$$f^*\omega_Y \leq \begin{cases} \frac{A}{B}\omega_X & \text{if } \alpha \leq k\beta \\ \frac{A + (\alpha - k\beta)C}{B} \frac{\omega_X}{|s|_h^{2(\alpha - k\beta)}} & \text{if } \alpha > k\beta \end{cases}$$

ただし,  $s \in H^0(X, \mathcal{O}_X(D))$  は, その零因子が  $D$  となるものであり,  $h$  は, 直線束  $\mathcal{O}_X(D)$  の Hermite 計量,  $C > 0$  は,  $\sqrt{-1}R_h \leq C\omega_X$  を満たす定数とした.  $\square$

先に述べたように, 体積形式に関する主張も得たが, 同様の主張であるので, 詳細は論文参照されたい.

### 3 最大存在時間が有限な conical Kähler-Ricci flow のスカラー曲率の挙動

conical Kähler-Ricci flow は, Kähler-Ricci flow を conical Kähler 計量に拡張したものである. 代数幾何学の観点では, Kähler-Ricci flow は, 標準束  $K_X$  を考えることに対応し, conical Kähler-Ricci flow は, 対数的標準束  $K_X + (1 - \beta)D$  を考えていることに対応する.

ここで, conical Kähler-Ricci flow の定義を振り返っておく.  $(X, D)$  をコンパクト Kähler 多様体と, 滑らかな因子の組とし,  $\beta$  を  $0 < \beta < 1$  とする. conical Kähler 計量の族  $\omega_t$  が (正規化された) conical Kähler-Ricci flow であるとは, 次の発展方程式を満たすことをいう.

$$\begin{cases} \frac{\partial}{\partial t} \omega_t &= -\text{Ric}(\omega_t) - \omega_t + 2\pi(1 - \beta)[D], \\ \omega_t|_{t=0} &= \omega^*. \end{cases}$$

与えられた初期計量  $\omega^*$  に対し, conical Kähler-Ricci flow が存在する時間については Shen [She14a, She14b] による次の結果がある. 初期計量  $\omega^*$  が, ある種の形をしているとき, conical Kähler-Ricci flow  $\omega_t$  は存在し, さらにその最大存在時間  $T$  は, 以下のようにコホモロジー類の情報を使って特徴づけられる.

$$T = \sup\{t > 0 \mid [\omega_t] = e^{-t}[\omega_0] + (1 - e^{-t})2\pi c_1(K_X + (1 - \beta)D) \text{ is a Kähler class}\}.$$

この節では, conical Kähler-Ricci flow が有限時間しか存在しない時, スカラー曲率の発散度合いについて得られた結果に述べる. この定理は, Kähler-Ricci flow における Zhang [Zha10] の結果を conical Kähler-Ricci flow に拡張したものである. また, このような特異性の解析は, 幾何解析における基本的な問題である.

**Theorem 4** ([Nom16c]).  $\omega_t$  を,  $\omega^*$  を初期値とする conical Kähler-Ricci flow とし, 最大存在時間  $T$  が有限であるとする. さらに, あるコンパクト Kähler 多様体  $(Z, \omega_Z)$  への正則写像  $f: X \rightarrow Z$  および, ある  $Z$  内の因子  $D_Z$  が存在し,  $D = f^*D_Z$ ,  $[f^*\omega_Z] = [\omega_T]$  を満たすと仮定する. このとき, スカラー曲率に関して次の評価が成り立つ.

$$R(\omega_t) \leq \frac{C}{(T - t)^2}$$

□

定義から, conical Kähler 計量は因子  $D$  に沿って特異性をもつ. そこで, Campana-Guenancia-Păun [CGP13] が用いた, conical Kähler 計量を滑らかな計量で近似する技術が必要となる.

## 参考文献

- [CGP13] F. Campana, H. Guenancia, and M. Păun, *Metrics with cone singularities along normal crossing divisors and holomorphic tensor fields*, Ann. Sci. Éc. Norm. Supér. (4) **46** (2013), no. 6, 879–916, MR: 3134683.
- [HLW16] G. Heier, S. S. Y. Lu, and B. Wong, *Kähler manifolds of semi-negative holomorphic sectional curvature*, J. Differential Geom. **104** (2016), no. 3, 419–441, MR: 3568627.
- [Jef00] T. D. Jeffres, *Schwarz lemma for Kähler cone metrics*, Internat. Math. Res. Notices (2000), no. 7, 371–382, DOI: 10.1155/S1073792800000210, MR: 1749739.
- [Nom16a] R. Nomura, *Kähler manifolds with negative holomorphic sectional curvature, Kähler-Ricci flow approach*, arXiv:1610.01976[math.DG], submitted to International Mathematics Research Notices.
- [Nom16b] R. Nomura, *Schwarz lemma for conical Kähler metrics with general cone angles*, arXiv:1610.01975[math.DG], submitted to Osaka Journal of Mathematics.
- [Nom16c] R. Nomura, *Blow-up behavior of the scalar curvature along the conical Kähler-Ricci flow with finite time singularities*, arXiv:1607.03004[math.DG], submitted to Differential Geometry and its Applications.
- [She14a] L. Shen, *Unnormalize conical Kähler-Ricci flow*, arXiv:1411.7284[math.DG].
- [She14b] L. Shen,  *$C^{2,\alpha}$ -estimate for conical Kähler-Ricci flow*, arXiv:1412.2420[math.DG].
- [ST07] J. Song and G. Tian, *The Kähler-Ricci flow on surfaces of positive Kodaira dimension*, Invent. Math. **170** (2007), no. 3, 609–653, DOI: 10.1007/s00222-007-0076-8, MR: 2357504.
- [ToY15] V. Tosatti and X. Yang, *An extension of a theorem of Wu-Yau*, arXiv:1506.01145[math.DG].
- [TZ06] G. Tian and Z. Zhang, *On the Kähler-Ricci flow on projective manifolds of general type*, Chinese Ann. Math. Ser. B **27** (2006), no. 2, 179–192, DOI: 10.1007/s11401-005-0533-x, MR: 2243679.
- [WY16a] D. Wu and S.-T. Yau, *Negative holomorphic curvature and positive canonical bundle*, Invent. Math. **204** (2016), no. 2, 595–604, DOI: 10.1007/s00222-015-0621-9, MR: 3489705.
- [Yau78] S.-T. Yau, *A general Schwarz lemma for Kähler manifolds*, Amer. J. Math. **100** (1978), no. 1, 197–203, MR: 0486659.
- [Zha10] Z. Zhang, *Scalar curvature behavior for finite-time singularity of Kähler-Ricci flow*, Michigan Math. J. **59** (2010), no. 2, 419–433, DOI: 10.1307/mmj/1281531465, MR: 2677630.